

ちゅみき (積木)



猫かわいいかな？

ねとたわい

# 発音を間違える



こんな話し方になることはありませんか？

- ① 「せんせい」 → 「ちえんちえい」 など幼児音になる
- ② 「たいこ」 → 「あいお」 などアイウエオのみの発話になる
- ③ 何を言ってるか聞き取りにくい、キレイでなく雑音が混じる

## 発音の発達

1歳になると意味のある言葉がでてきます。「マンマ」「ブーブー」などマ行、パ行、バ行を使った言葉がよく出るようになります。3歳を過ぎてくると、カ行、タ行、ガ行、ダ行などが出来るようになります。サ行やラ行は5~6歳まで完成しないことも多いです。

このように発音は成長とともに自然によくなっていきます。しかし、なかなか発音がはっきりしない、間違いが改善しないときは、原因を専門家と一緒に考えたほうがよい場合もあります。

## NG! 間違いを叱る、正しい音を真似させる

発音が間違っても、それを指摘し叱る、誤り音を真似してからかう、正しい音を何回も真似させることはやめましょう。よかれと思って発音を指摘してしまうかもしれませんが、本人が意識しすぎると自然に治りにくくなったり、話すこと自体が嫌になるなど二次的な問題につながる可能性があります。

## 家族ができること

### 正しい音で話しかける

子どもが発音を間違えていても、周りの人達は正しい音で話しかけるようにしてください。

例：子ども「ネトがいるよ」

保護者「そうだね、ネコだね」



### 会話を楽しむ

本人が気付いていないのであれば、誤りを自覚させなくても大丈夫です。話の内容が通じればそれでよしとし、コミュニケーションを楽しむ経験をたくさん積んでください。

## 発音の相談はいつ頃するのがよい？

年中頃を目安にご相談ください。なぜ発音を間違えるのか遊びや問診を通して一緒に考えていきます。そして、年齢や発達に合った関わり方、お家でできることを話し合っていきます。必要であれば、発音訓練等も検討していきます。